



豆の木通信 第2号

2008年 9月発行 てらだ小児科

HP もごらんください

<http://www.genki-kodomo.net>

**ラジオ関西の番組「みんなの健康相談」でお話をします。
9月6日（土曜日）朝 7時50分～8時 558kHz ラジオ関西
「熱性けいれん」についてお話をします。**

* 「熱性けいれん」とは

子どもの脳は熱に弱く、体温が38度を超えただけでもけいれんを起こします。これが「熱性けいれん」です。多くの場合、けいれんは5分以内に自然に止まります。平熱から急に熱が上がりだす時や上がりきって24時間以内に起きることがほとんどです。

おもに生後6ヵ月から5歳くらいまでに見られ、ピークは1歳から2歳の間です。およそ15人に1人の子どもさん(7%)にみられます。はじめて発作を起こした人の3人に1の方が繰り返します。熱性けいれん自体は心配のないもので、脳損傷や精神遅滞、学習障害という後遺症を起こすことはありません。

* けいれん止めの坐薬の使い方

短い時間ですぐにおさまる熱性けいれんが2回以下の場合、特に熱が出たときにけいれん予防の薬を使う必要はありません。しかし、熱性けいれんを繰り返しやすい人の場合は、ダイアップという坐薬で予防することがあります。37.5度以上の発熱に気がついたときに、坐薬を1回入れます。

その8時間後にまだ38度以上の発熱がある場合には、もう1回入れます。副作用としてふらふらしたり、眠気が強くなることがあります。一時的なものです。

熱さましの坐薬と同時に使うと、けいれん止めの坐薬のききめが十分にあらわれません。まず、けいれん止めを使い30分以上あけてから熱さましの坐薬を入れてください。

* 予防注射について

最終のけいれん発作から2-3ヵ月たてば、全ての予防接種を行って差し支えないとされています。体調の良い時に必要な予防接種を順番に受けてください。個別にご相談をさせていただきます。

* けいれんが起きたら

あわてず、おちついて行動してください。静かに楽に寝かせましょう。口の中にタオルやスプーンなどを入れてはいけません。ほとんどの場合5分以内にとまります。

「けいれんが10分以上続く」場合や「おさまったと思ったら、またけいれんが起こり意識が戻らない」場合は救急車を呼んで、至急 小児科を受診してください。

「けいれん」について、ご心配な点があればお気軽にご相談ください。